

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
設置者	カソウホウジンホン イカ ダイガク 学校法人日本医科大学								
大学院の名称	ニホンジュウイ セイメイカガク ダイガクダイガクイン 日本獣医生命科学大学大学院 (Graduate School of Nippon Veterinary and Life Science University)								
大学本部の位置	東京都武蔵野市境南町一丁目七番地一号								
大学院の目的	日本獣医生命科学大学大学院は、獣医学、応用生命科学の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与するとともに、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。								
新設大学院の目的	<p>本学は平成17年4月に、獣医学部に獣医保健看護学科を設置した。同学科の目的は、進展する高度先端獣医療における獣医師の補助及び野生動物管理、地球環境保全、公衆衛生等の諸科学の教育を行い、その活用と社会貢献に寄与する獣医療技術者を育成することであり、平成21年3月に最初の卒業生を輩出した。今日、獣医療技術者(動物看護師)を養成する各種学校・専門学校が増大しているが、多くの施設において専門教員は少なく教育体制は満足とは言えない。また、将来的には動物看護師に対して、法律に基づく国家資格認定制度を導入することが望まれるが、その前提として獣医保健看護学を適正に教授する教育職・研究職の養成が必要であり、動物看護師養成機関の教育の質の向上を図ることが急務であることから、平成21年4月には大学院獣医生命科学研究科に獣医保健看護学専攻修士課程を設置した。更に、本学の獣医保健看護学科の教育を基盤として、獣医保健看護学に関する更なる創造力豊かな高度な教育・研究者の養成を目的として、大学院獣医生命科学研究科に獣医保健看護学専攻博士後期課程を設置する。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】獣医学部獣医保健看護学科
	獣医生命科学研究所 〔Graduate School of Veterinary Medicine and Life Science〕	年	人	年次人	人				
	獣医保健看護学専攻博士後期課程 〔Doctoral Course in Veterinary Nursing and Technology〕	3	2	—	6	博士 (獣医保健看護学)	平成23年4月1日 第1年次	東京都武蔵野市 境南町一丁目七番地一号	
	計	3	2	—	6				
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	<p>獣医保健看護学専攻の課程変更に伴い、既存の獣医保健看護学専攻修士課程の学生収容定員16名を獣医保健看護学専攻博士前期課程10名、獣医保健看護学専攻博士後期課程6名に定員を移行する。入学定員は、獣医保健看護学専攻博士前期課程を5名とし、獣医保健看護学専攻博士後期課程を2名とする。</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		本学においては、演習を「特別演習」、実験・実習を「特別研究」としている。	
	獣医保健看護学専攻博士後期課程	講義	演習	実習	計	12単位			
		—	4科目	4科目	8科目				

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼任 教員		
			教授	准教授	講師	助教	計		助手	
新設分	獣医生命科学研究科獣医保健看護学専攻博士後期課程		4人 (4)	3人 (3)	2人 (2)	0人 (0)	9人 (9)	0人 (0)	0人 (0)	
	計		4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	
	既設分	獣医生命科学研究科獣医学専攻博士課程		18 (18)	11 (11)	2 (2)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	0 (0)
		獣医生命科学研究科獣医保健看護学専攻修士課程		4 (4)	3 (3)	4 (4)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
		獣医生命科学研究科応用生命科学専攻博士前期課程		11 (11)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	0 (0)
獣医生命科学研究科応用生命科学専攻博士後期課程		6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)		
計		39 (39)	24 (24)	8 (8)	2 (2)	73 (73)	0 (0)	0 (0)		
合 計		43 (43)	27 (27)	10 (10)	2 (2)	82 (82)	0 (0)	0 (0)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		31人 (31)		0人 (0)		31人 (31)			
	技 術 職 員		18 (18)		0 (0)		18 (18)			
	図 書 館 専 門 職 員		5 (5)		0 (0)		5 (5)			
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計		54 (54)		0 (0)		54 (54)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計				
	校舎敷地	27,097.40㎡	14,478.81㎡	9,157.52㎡		50,733.73㎡				
	運動場用地	0.00㎡	15,330.33㎡	0.00㎡		15,330.33㎡				
	小 計	27,097.40㎡	29,809.14㎡	9,157.52㎡		66,064.06㎡				
	そ の 他	60,169.00㎡	68,184.73㎡	349,300.36㎡		477,654.09㎡				
	合 計	87,266.40㎡	97,993.87㎡	358,457.88㎡		543,718.15㎡				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計					
	21,036.77㎡ (21,036.77㎡)	4,579.72㎡ (4,579.72㎡)	24,566.20㎡ (24,566.20㎡)		50,182.69㎡ (50,182.69㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	19室	1室	15室	3室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)					
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数						
	大学全体			46 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	大学全体	97,000 [30,198] (93,000 [29,098])	2,329 [648] (2,329 [648])	2,407 [2,407] (2,407 [2,407])	1,688 (1,488)	— (—)	— (—)			
	計	97,000 [30,198] (93,000 [29,098])	2,329 [648] (2,329 [648])	2,407 [2,407] (2,407 [2,407])	1,688 (1,488)	— (—)	— (—)			
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数						
	1,218.4 ㎡	237 席		78,616 冊						
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	803.21 ㎡	グラウンド								
経 費 の 積 立 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等		2,103千円	2,103千円	2,103千円	—千円	—千円	—千円	
		共同研究費等		43,800千円	43,800千円	43,800千円	—千円	—千円	—千円	
		図書購入費	24,640千円	24,640千円	24,640千円	24,640千円	—千円	—千円	—千円	
	設備購入費	94,124千円	94,124千円	94,124千円	94,124千円	—千円	—千円	—千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学院生学納金		
1,030千円	830千円	830千円	—千円	—千円	—千円					
学生納付金以外の維持方法の概要		国庫補助金、寄付金及び手数料収入								

既設大学の状況	大学の名称		日本獣医生命科学大学						所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍			
	大学院 獣医生命科学 研究科獣医学専攻 博士課程	4	8	0	32	博士(獣医学)	0.87	昭和37	東京都武蔵野市境南町 一丁目七番地一号	
	大学院獣医生命科学研 究科獣医保健看護学専 攻修士課程	2	8	0	16	修士(獣医保健看護学)	1.25	平成21		
	大学院 獣医生命 科学研究科応用生命 科学専攻博士前期課程	2	7	0	14	修士(応用生命科学)	1.21	平成17		
	同後期課程	3	2	0	6	博士(応用生命科学)	0.66	平成20		
	獣医学部 獣医学科	6	80	0	480	学士(獣医学)	1.18	昭和24	東京都武蔵野市境南町 一丁目七番地一号	平成15年度に 獣医畜産学部から 獣医学部名称変更
	獣医保健看護学科	4	80	0	320	学士(獣医保健看護学)	1.19	平成17		
	応用生命科学部 動物科学科	4	80	0	320	学士(動物科学)	1.07	昭和24	東京都武蔵野市境南町 一丁目七番地一号	平成15年度に 獣医畜産学部から 応用生命科学部に 改組した。
	食品科学科	4	80	0	320	学士(食品科学)	1.11	昭和42		
大学の状況	大学の名称		日本医科大学						所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍			
	大学院 医学研究科 博士課程					博士(医学)				
	生理系専攻	4	10	0	52		0.20	昭和35		生理系H.22、14→10
	病理系専攻	4	6	0	24		0.20	昭和35		社会医学系H.21、4→3
	社会医学系専攻	4	3	0	14		0.14	昭和35	東京都文京区千駄木 一丁目一番地五号	加齢科学系H.21、10→7
	加齢科学系専攻	4	7	0	34		0.09	平成14		内科系H.22、16→20
	内科系専攻	4	20	0	68		0.63	昭和35		外科系H.21、20→24
	外科系専攻	4	24	0	88		0.67	昭和35		それぞれ入学定員 を変更した。
	医学部 医学科	6	112	0	622	学士(医学)	1.00	昭和27	東京都文京区千駄木 一丁目一番地五号	21年度に100→110 名に定員増 22年度に110→112 名に定員増

附属施設の概要	○名称：日本獣医生命科学大学附属牧場「富士アニマルファーム」 目的：教育・研究 所在地：山梨県南都留郡富士河口湖町富士ヶ嶺799番地（平成4年宮城県加美郡小野田町から移転） 設置年月：昭和50年7月 規模：土地 60,169.02㎡、建物 2,376.94㎡	大学全体
	○名称：学校法人日本医科大学日本獣医生命科学大学「牧心セミナーハウス」 目的：福利厚生 所在地：山梨県南都留郡富士河口湖町富士ヶ嶺831番地 設置年月：平成14年3月 規模：土地 68,184.73㎡、建物 1,892.57㎡	
	○名称：日本獣医生命科学大学 附属動物医療センター 目的：教育・研究 所在地：東京都武蔵野市境南町一丁目 7番地 1号 設置年月：平成15年6月 規模：建物 4,224.63㎡	
	○名称：日本獣医生命科学大学 生命科学共同研究施設 目的：教育 所在地：東京都武蔵野市境南町一丁目 7番地 1号 設置年月：平成15年8月 規模：建物 557.55㎡	

教育課程等の概要														
(獣医生命科学研究科獣医保健看護学専攻博士後期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
先端獣医保健看護学	動物生体機構学特別演習	1~3		4			○		1	2				指導教員担当の特別演習1科目4単位及び特別研究1科目8単位を必修とする。本学においては、演習を「特別演習」実験、実習を「特別研究」としている。
	動物環境科学特別演習	1~3		4			○	1		1				
	実践動物看護学特別演習	1~3		4			○	1	1					
	動物保健看護システム学特別演習	1~3		4			○	1		1				
	動物生体機構学特別研究	1~3		8				○	1	2				
	動物環境科学特別研究	1~3		8					1		1			
	実践動物看護学特別研究	1~3		8					1	1				
	動物保健看護システム学特別研究	1~3		8					1		1			
合計(8科目)				48			—	4	3	2				
学位又は称号	博士(獣医保健看護学)		学位又は学科の分野				農学関係、獣医学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
修業年限は3年とする。指導教員の特別演習4単位及び特別研究8単位を選択、合計12単位以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で本大学院が行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2学期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			60分				

別記様式第2号（その3の1）

授 業 科 目 の 概 要			
(獣医生命科学研究科獣医保健看護学専攻 (D))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端獣医保健看護学分野	動物生体機構学特別演習	<p>(概要) 動物看護の現場で遭遇する種々な疾患動物がなぜ疾病を発症するのかそのメカニズムの解明方法を分子遺伝、分子病態病理、疾患モデル動物解析など多面的な視点から考える能力を養うため、国内外の学術論文や関連分野のサイエンステクノロジーを紹介し、ゼミナール形式で論文内容ならびに課題に対する考察の発表を行う。さらに、質疑応答、討論を行い課題解決能力を養う。 (オムニバス方式/全4単位 1回2時間 計60回)</p> <p>(1 湯本 典夫/20回) 演習は免疫疾患、炎症性疾患、腫瘍に関する論文を題材に用いる。題材の発表後の討議では、病理形態学、分子病理学手法で疾病を思考できるように展開する。題材の中心項目は1) 疾病の原因に関する項目、2) 疾病の機序に関する項目、3) 疾病の表現に関する項目からなる。</p> <p>(5 袴田陽二/20回) 演習はヒトを含む各種動物の生体機構を扱った最新の論文を題材に用いる。論文の内容を鵜呑みにするのではなく、関連論文を集め、時に批判的に読む訓練の中から論理的な思考能力を養う機会とする。題材の主たるテーマは、1) 生体への遺伝子導入技術に関する事項、2) 遺伝子治療に関する事項、3) 幹細胞を利用した臓器再生に関する事項からなる。</p> <p>(6 近江俊徳/20回) 演習はおもに国内外の遺伝性疾患動物について報告された最新の論文を題材に用い、分子遺伝学的な視点で疾病を思考できるように展開する。題材を通し演習する主な項目は、1) 疾病の種類および品種に関する項目 2) 各種遺伝病の分子遺伝学的機序に関する項目 3) 遺伝性疾患動物の遺伝子検査法となる。</p>	オムニバス方式
	動物環境科学特別演習	<p>(概要) 環境と野生動物に関連する重要な和英論文の読解を通じて、研究の価値や方法論、考察の手法や問題点について討論形式で議論をする。これによって自らの研究手法や結果の解釈を正しく自己批評する機会を与えるとともに、論理的な思考法のスキルアップをさせることができる。また、なかでも英語論文においては、論文全体の構成や流れの作り方、論文中で用いられる表現方法を会得させることにも狙いがあり、これらを通じて英語論文作成に向けての技術的な実践訓練にもなるように組み立てる。 (全4単位 1回2時間 計60回)</p> <p>(2 梶ヶ谷 博、9 山本俊昭 /60回) 演習は次のように展開する。1) 国内外の野生動物保護と管理に関連する学術報告を通じて、野外観察手法の正当性と妥当性を検討しながら自然科学的野外データの解析の原理と難しさについて考察する。2) 特に日本語論文を用いて、それらを英語表現する場合の和英の発想の違いに力点を置きながら、科学的な議論の本質をくみ取る能力をグループディスカッション形式で討論しながら修得させる。3) 動物生態学分野の学術論文を題材として、生物現象を数値化表現する際の統計学的および生物学的な注意点を学ぶ。4) 基礎的な環境科学データを社会応用する際の方向性の捉え方と社会的影響の予測について実例をまじえながら討議的に考察する。</p>	9. 指導補助教員

授 業 科 目 の 概 要

(獣医生命科学研究科獣医保健看護学専攻 (D))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端獣医保健看護学分野	実践動物看護学特別演習	<p>(概要) 実践的な動物看護学を学問的に体系づけるためには、現在実践されている動物看護学を検証し不足部分を補い発展させていく必要がある。また、実践的な動物看護学には、高い倫理感を背景とした動物愛護の精神が必要不可欠である。従って、本演習では、海外と国内における動物看護や動物愛護の現状を比較し、加えて人の看護学研究から動物看護学への応用を進める。また、動物における疾病に関する知識、様々な健康レベルにある動物たちの状態に関する知識、飼育環境・入院環境等の変化に関する知識を広げ、それに対して必要な看護方法、あるいは獣医療を補助する臨床検査および各種検査方法の理解と充実を図る。他方、動物の情動を把握することは、効果的な看護を行う上で重要である。従って、動物の情動を把握するために、科学的データを用いた行動学的手法により検討を行う。特別演習ではゼミナール形式で論文内容や課題に対する考察の発表を行う。さらに、質疑応答、討論を交え課題を解決する能力を養う。</p> <p style="text-align: center;">(全4単位 1回2時間 計60回)</p> <p>(3 左向敏紀、7 小林真理子 /60回)</p> <p>疾病ごとの看護：疾病ごと、回復過程ごと、合併症有無、により看護方法が異なるが、その基本と応用を理解するばかりでなく、内容を教育するための手法を検討する。</p> <p>診断方法、臨床遺伝子診断：獣医療における診断方法は加速的に進歩している。その中には画像診断に関するもの、臨床的遺伝子診断方法に関するもの、負荷試験、生体検査、新規検査測定項目の現状と理論を理解、会得させる。</p> <p>ストレスマーカー：動物のストレスについて客観的成績とするためには、どのような方法が有るかを理解すると共に評価法を実践する。</p> <p>看護記録：動物看護に看護記録を導入および指導するため人の看護学等でどのように導入歴史、問題点を抽出し、動物看護においてどのように導入して行くか検討・実践する。また、各種疾病におけるクリニカルパスを作成・検討し、模擬実践をおこなう。看護記録・クリニカルパス導入における看護師教育法を理解。会得させる。</p>	7. 指導補助教員
	動物保健看護システム学特別演習	<p>(概要) 高齢者は生涯の伴侶としてのペットに少なからぬ財を投入している。動物保健看護学システム学特別演習においては学術論文や公的資料の調査により、本邦に限らず欧米で医療にどれぐらいの財が投入されているのかを概観し、現状を把握するために必要な統計学手法を学ぶ。さらに、データの解析およびその結果について質疑応答、討論を行い課題解決能力を養う。</p> <p style="text-align: center;">(全4単位 1回2時間 計60回)</p> <p>(4 大坂 元久、8 青木 博史 /60回)</p> <p>なお次の4段階は1単位(各15回)ずつからなる。</p> <p>1) 本邦においてペットに関わる動向を公開されている資料から明らかにする作業を行なう。すなわち、ペットの種類、頭数、飼い主の人口構成などを時系列的に集計し基本資料を作製する。ペット産業にどれだけ財が投入されているかを経済資料から推定する。データを収集し、まとめるという統計学的手法を学ぶ。そして、そこから見えない動向を推定する方法を学ぶ。</p> <p>2) 欧米においてペットに関わる動向を1)で履修したことを応用して明らかにする。</p> <p>3) ひとがひとの医療にどれだけの財を投じているのか、その動向を1)で履修したことを応用して明らかにする。</p> <p>4) 以上1、2、3)で得られた基礎にもとづいて本邦におけるペットに関わる動向の特徴を探る統計的な手法を学ぶ。そして、この4段階を基礎として個別の問題意識を醸成し特別研究へ繋がるようにする。</p>	8. 指導補助教員

授 業 科 目 の 概 要			
(獣医生命科学研究科獣医保健看護学専攻 (D))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端獣医保健看護学特別研究分野	動物生体機構学特別研究	<p>(概要) 動物生体機構学特別研究では、演習で得られた知識や文献等の解析を踏まえ、動物看護の現場で遭遇する種々の動物の疾病の原因、発症機序及び、組織発生に関して、分子遺伝、分子病態病理、疾患モデル動物解析などの多面的な視点から研究を行う。1) 動物看護で重要な輸血不適合に関与する血液型物質の責任遺伝子の同定、2) 遺伝子改変動物を用いた組織再生に関する分子メカニズムの解明 3) 生体防御機構の統御と破綻に係る腫瘍の組織発生を研究課題にして、実験・研究計画を立案し、指導教員と共に実験内容、実験方法等の検討を行った上で、研究実験を遂行する。研究に対する深い洞察力を養うとともに研究発表論文の作成指導を行い、博士論文の作成を導く。</p> <p>(オムニバス方式/全8単位、1回6時間 計60回)</p> <p>(1 湯本典夫) 免疫系の統御の破綻を生じるリンパ増殖性疾患の発症のしくみ、生体の応答、組織発生について病理形態学、分子病理学的に研究を進める。博士論文を作成する為の研究指導は以下の課題について行なう。1) 悪性リンパ腫の細胞形質と遺伝子発現の比較研究 2) 腫瘍診断への分子病理学的検索の応用 3) 抗腫瘍免疫療法における腫瘍細胞の形質変異に関する研究 4) 外科病理診断に関する研究</p> <p>(5 袴田陽二) 生体内における遺伝子の機能を明らかにする方法として、遺伝子改変動物は極めて有効なツールである。ラット、マウスの遺伝子改変動物を作製し、遺伝子機能解析と遺伝子治療を目指して以下の研究を行っている。 1) 遺伝子改変動物の作成と解析 2) 非ウイルスベクターによる遺伝子導入法の開発と臨床応用 3) 間葉系幹細胞を用いた臓器再生研究</p> <p>(6 近江俊徳) 輸血医療において重要な血液型物質の生体内における生物学的意義および個体識別に関する分子遺伝学的解析研究を進めている。博士論文を作成する為の研究指導は以下の課題について行なう。 1) 動物看護学への応用に向けた血液型物質の遺伝子の同定 2) DNA個体識別法の動物福祉への展開</p>	オムニバス方式
	動物環境科学特別研究	<p>(概要) 動物環境科学特別研究においては、人間と野生動物との様々な関わり方を数理解的に捉える能力を養うことを主たる目標とし、関連した研究を行っている。この考え方は獣医系領域での動物観察の現場において共通して難しいとされる事象の数値化を研究の手段とすることで、研究領域の幅が飛躍的に増大することを期待したものである。研究領域としては、生態学的な事象、すなわち生物と環境との相互関係を客観的に解析するツールである野外事例データの数値的分析を手段とし、従来の統計解析のほかに、地理情報システム (GIS) を用いた解析、物理工学的解析など多くの発展した解析方法も取り入れる。これらの手法を高度に使いこなす能力を養うとともに、基本的な自然環境における野生動物の動態解析に重要な、多角的多様性のある事象の読み解き方と実験計画の立案法を、データを基にした討議のなかで指導する。</p> <p>(全8単位、1回6時間 計60回)</p>	9. 指導補助教員

授 業 科 目 の 概 要

(獣医生命科学研究科獣医保健看護学専攻 (D))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端 獣医 保健 看護学 分野	先端 獣医 保健 看護学 特別 研究	<p>(2 梶ヶ谷博、9 山本俊昭) 二つの側面から研究を展開している。第一は人間環境との関わりが大きい野生動物の交通事故を主テーマとして研究を行っている。 1) 力学的解析、2) 光学的解析、3) 生態学的解析、4) 社会環境との関わり、5) 発生メカニズムを検証するための実験系開発。 また、第二として人間社会と野生動物との適切な距離の在り方は重要な現代的テーマと考えられる。そこでもう一方の研究としては以下の諸点を軸として行っている。1) ツキノワグマの行動圏解析を通じた大型哺乳類の適正生息環境、2) サクラマスの環境選択原理に及ぼす自然環境変化の影響、3) 農作物被害を引き起こす野生動物との共生。</p>	
	実践動物看護学特別研究	<p>(概要) 実践動物看護学特別研究では、演習で得られた知識と文献等の解析を踏まえ、伴侶動物における獣医療の高度化、伴侶動物の高齢化にあわせた動物看護学の発達に見合う、高い倫理感を背景に動物愛護の精神を持った人材輩出を目指すため、以下のような研究課題を考えている。疾患を持った動物や高齢動物の栄養管理を始めとする各種管理の方法、疾患に対する診断方法や治療のための指標を確立する。また、遺伝子レベルの検討も含む各種検査マーカーの検討ならびに動物に対する栄養補助飼料の研究を行い獣医療や動物看護に貢献する。他方、動物を介在させての人の肉体的・精神的治療あるいは教育などを目的とした活動が注目を浴びているが、使用される動物のストレスや愛護などに関する研究は少ない。従って、本邦における動物愛護の現状、動物介在活動で使用される動物の愛護や倫理、ストレスなどに関する研究を行う。以上のように、現場に則した実践的な研究内容の中から、指導教員と共に実験内容、実験方法等の検討を行った上で、研究課題の設定および実験を遂行する。研究に対する深い洞察力を養うとともに研究発表論文の作成指導を行い、博士論文の作成を導く。</p> <p style="text-align: center;">(全8単位、1回6時間 計60回)</p> <p>(3 左向敏紀、7 小林真理子) 1) 疾病ごと、回復過程ごと、の栄養管理について検討する。栄養状態の評価指標、疾病の回復指標を検討すると共にその動向の解析方法、まとめ方、発表方法を習得する。 2) 動物における新規診断マーカーの評価方法、臨床的意義、利用方法を定めて行く道筋を習得し、臨床現場への普及方法を検討する。 3) 遺伝子診断方法、培養細胞を利用した疾病原因の解明方法を習得し、臨床でのその応用方法を検討する。 4) 人や動物で考えられている種々のストレスマーカーについて、伴侶動物に応用出来るのかを実証する。またその変動幅、再現性、臨床応用方法を検討し、まとめ方、公表方法を習得する。 5) 動物介在教育の在り方を理解し、その実践方法、公表方法を習得する。また、教育方法、伝達方法を検討する。 6) 動物看護師の社会的立場を法律的にも理解する。また、獣医療では何が認められ何が認められていないか、裁判判例などを利用して理解する。そのことを動物看護職に教育する方法を習得する。</p>	7. 指導補助教員

授 業 科 目 の 概 要

(獣医生命科学研究科獣医保健看護学専攻 (D))

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端 獣医保健看護学 分野	先端 獣医保健看護学 特別研究 動物保健看護システム 学特別研究	<p>(概要) ひと・動物の医療に関わる経済学を学ぶ。本邦に限らず欧米で医療にどれだけの財が投入されているのかを概観し、現状を把握する。高齢化社会に向けてひとが自身にどのぐらいの財をかけているかを探究するだけではいまや不十分である。高齢者は生涯の伴侶としてのペットに少なからぬ財を投入している。動物保健看護システム学の大学院生はこれらの与えられた課題に関連する研究の現状を把握し、新たな研究課題を設定する。設定課題に応じた実験計画を立案し、指導教員と共に実験内容、実験方法等の検討を行った上で、研究実験を遂行する。研究に対する深い洞察力を養うとともに研究発表論文の作成指導を行い、博士論文の作成を導く。</p> <p style="text-align: center;">(全8単位、1回6時間 計60回)</p> <p>(4. 大坂 元久、8 青木 博史)</p> <p>1) 統計学的にひと・動物の医療に関わる財の動向を時空的に、すなわち過去、現在およびグローバルな地域ごとに調査する。統計学的な調査方法と分析法を習得し、まとめる方法を習得する。</p> <p>2) 上記の結果にもとづいてひとが満足できるサービスを医療から享受するには財の投入・動向がどうあるべきかを数理モデルをつくって検討する。経済学で用いられる効用関数を使ってひとが満足できるサービスを定量的に分析する。これらの手法を使ってシミュレーションにより現状の分析と未来予想を行なう。</p>	8. 指導補助教員